

ATG による背景疾患毎の合併症頻度分布の違いと予後に与える影響

1. 研究の対象

2007 年 1 月～2018 年 12 月に同種造血幹細胞移植を施行され日本造血細胞移植会データベース (TRUMP) に登録されている方

2. 研究目的・方法

GVHDは移植後重要な合併症です。HLA不適合移植においてはGVHDの発症率が高く、GVHD予防としてanti-thymocyte globulin(ATG)の追加によりGVHDの発症率をHLA適合移植と同等に減少させることが可能かどうかの検討が広く行われています。しかし、ATGを投与することのメリットは元々の血液疾患の種類によって大きく異なる可能性があります。このような解析には、大多数例のデータを用いての解析が必要であり、TRUMPデータベースを用いる必要があり、この結果はGVHD予防の適正化に貢献するものと期待されます。

本研究では、TRUMP データを用いて後方視的に統計学的解析を行います。

研究期間：倫理審査委員会承認後～2023年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

日本造血細胞移植学会データベースに登録されている情報を用います。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

お問い合わせ先：

研究責任者 藤 重夫

大阪国際がんセンター 血液内科

〒541-8567 大阪府大阪市中央区大手前 3 丁目 1-69

TEL:06-6945-1181(代表) PHS 6476

E-mail:fujishige1231@gmail.com

-----以上